**説教20230528一コリ12：4-13ヨハネ20：19-23「息吹きかけられて」**

**聖霊降臨おめでとうございます。主なる神は全地を祝福され、私たちが皆一つの霊を飲むようにと、聖霊を送って下さいました。そうして、聖霊に満たされた者たちが、集まって教会を形作ったのです。聖霊降臨日は教会の誕生日だとも言われます。**

**コリントの信徒への手紙一 12章 13節**

**つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。**

**ここで、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、と、言われているのは、言い換えれば日本人であろうと中国人であろうと、国会議員であろうとサラリーマンであろうとと言う風に、この地上の全ての人が、キリストとと言う頭を持つ、一つの体として教会を形成していくということです。**

**教会と言うところは、私たちが一つの体にされるところでありますが、それは私たちが同調圧力によって一様に同じようになるということではありません。むしろ私たちは一つの体にされることによって、個性豊かにされ、それぞれ独自の働きを行うようにされ、大変、自由に活動をしていくさまが、今日のコリント書には記されています。そこらへんに本来教会が持つ喜びがあることを私たちは、よく知って参りたいと願います。**

**さて、一つの霊を飲ませてもらった私たちは、キリストに結ばれて、そしてキリストから、人それぞれにいろいろな賜物を頂けるようになります。**

**即ち、知恵の言葉、知識の言葉、信仰、病気をいやす力、奇跡を行う力、預言する力、霊を見分ける力、異言を語る力、異言を解釈する力などの賜物が聖書には列挙されています。私たちは洗礼を受けて、聖霊を頂いて、これらの賜物をキリストから頂いて、日々の生活を営むようにされます。これらの賜物は、決して浮世離れした、この世では行い得ないような観念的な物事ではありません。。この世の教育者ならば、知恵の言葉、知識の言葉をイエス様から頂いて、それを実際の教育現場で語ることが出来るでしょう。又、この世のお医者さんならば、科学的知見に基づいた医療の業の根底にある、病気を癒す力をイエス様から頂いて、その力を実際の医療現場で行使することが出来るようにされるのです。**

**又、奇跡を行う力、と言うのは、私たち人間がイエス様の様に、水をたちどころにぶどう酒に変化させると言ったたぐいの、驚くべき業を行えるようになる、と言うよりは、辛しだねのような小さな信仰があれば、それは不思議な仕方で、最終的に山をも動かすような大きな御業に繋がっていくというほうの力なのだと思います。**

**又、霊を見分ける力ということも語られていますが、これも、今の世の中が本当に必要としている力だと思います。霊と言うのは聖霊だけではなく悪い霊もたくさんこの世にはあります。そして今の世では、その悪い霊が跋扈しているように見えます。人間の力や能力では太刀打ちできない霊的な戦いがそこにはあります。私たちは、この聖霊溢れる教会に身を置いて聖霊に満たされ、そうしてこの世の中へと押し出されて行って、聖霊に守られながら、日々霊的な戦いに臨まなくてはならない時代に生きています。そういう意味では、永遠の命を保証して下さる聖霊の救いが、ますますこの世に輝き、全ての闇を滅ぼして、益々多くの人が、救いへと導かれるチャンスの時代に私たちは生かされているといってよいでしょう。**

**このように、いいことづくめの教会の営みを述べて参りましたが、その営みを支えているのがイエス・キリストと私たち一人ひとりとの親密な交わり（コイノニア）であります。**

**今日の説教題「息吹きかけられて」は、ヨハネ福音書の 20章 22節**

**そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。**

**から採ってきましたが、この様に、私とイエス様とはいつも、息を吹きかけられるような親密な関係の内に生きているのです。親密な関係にあるイエス様は、私にいつも息を吹きかけられて、御言葉をささやき、語り、時には叫んでくださいます。この様にイエス様の御言葉と言うのは、只、その意味内容を理解すると言ったたぐいの言葉なのではなくて、私たちがそれを体と心全体で受け止め、それに動かされて、活動へと導かれると言ったたぐいの言葉であります。そして、そのように私たちがおそれることなく活動へと導かれるのは、そのイエス様の御言葉が、永遠の命を語る愛の御言葉であるからです。**

**私たちが、この世にあってイエス様の永遠の命の御言葉を知っており、それに従って生きているということも、もうそれ自体で奇跡であると言えるでしょう。私たちは、力んで、大勢の人に褒められるような大きなことを成し遂げてやろうといったような野心を持つ必要がありません。それは、私たちがキリストと共に、永遠の命に生かされ、日々活動しているその一挙手一投足が既に、奇跡の業であり、未だキリストを知らない隣り人にとっては十分に驚きであるからです。私たちは、決して自分の野心を磨くのではなく、益々イエス様と親密になって、イエス様に息吹きかけられ御言葉をよく聞くことが出来る器へと変えられて参りたいと願います。**

**さて、ヨハネ福音書 20章 22節**

**そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。**

**の、息を吹きかけて、には、今日の招きの言葉　創世記2章 7節**

**主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。**

**と深い関係があります。この主なる神の息吹と、イエス様の息吹とが全く同じものかどうかは微妙ですが、どちらも、死んでいた私たちの体に息を吹きかけられて、生きた体に変えられたということです。**

**私たちの生まれながらの体は、未だ永遠の命を得ていないので、この世にあって朽ちて参りますが、私たちはイエス様から日々息吹きかけられて、御言葉に生かされることによって、朽ちない永遠の体を養われていきます。**

**それではなぜ、主なる神は、最初から私たち人間を朽ちない身体として造って下さらなかったのでしょうと言う疑問がわいて参ります。**

**この疑問を考えるには、私たちは罪と言うことに深く思いを致す必要があります。**

**有名な聖書箇所ですが、創世記2章7節のすぐあと、創世記3章 6節7節に次の様に書いています。**

**女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。**

**ここには罪と言う言葉はありませんが、聖書において、私たち人間が禁断の木の実を食べてしまった最初の罪が、ここに記されています。そしてこの罪が、人間全体に及んで人間には、死が与えられたと、聖書は語っています。**

**そして、時は流れて、救い主イエスキリストがこの世に来て下さって、この人間全体の罪を一身に引き受けて下さって、私たちの代わりに十字架にかかって死んでくださったので、その時に死が、絶対的な力を振るう世界は過ぎ去り、死を乗り越える永遠の命への道がキリストによって示され、キリストを信じてついていく人には、その道が与えられることになりました。**

**キリストと共に歩むことが出来る現代社会においては最早、死は絶対的な力を持って私たちを縛り付けることが出来ません。なぜならば、キリストが常に私たちにそばにいて、息を吹きかけていて下さって、永遠の命への道を歩むようにと促し、守っていて下さるからです。**

**但し、罪の力と言うのは、私たち人間が対処できるような生易しいものではなく、私たちは常に、イエス様を私たちの内にお迎えして、イエス様によって自らの罪を赦してもらえるようにしなくてはなりません。**

**この説教の冒頭にはいいことづくめの教会の営みを語って参りましたが、ではなぜその教会が停滞をしているように見えるのでしょうか。それにこたえるにはやはり私たちは、教会の中にも働いている罪の力に思いを致さざるを得ません。**

**今日の聖書箇所ではヨハネ福音書 20章 23節が罪の問題を語っています。**

**だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」**

**この聖句は、有名な聖句で記憶されていられる方も多いのではないでしょうか。ところが、この聖句は、とてもわかり易い誤解を招いている聖句でもあると思います。**

**聖書は自分勝手に読むのではなく、解き明かしが必要であると言われますが、それは、何も高度な神学の解釈をするということばかりでなく、この様な、多くの人が誤解しそうな聖句をよく解説していくということでもあります。ではこの聖句について解き明かして参りましょう。**

**先ず、この聖句についてよくある誤解。イエス様がこうおっしゃっているのだから、人が犯した罪はどんな罪でも追及するのでなく、赦してしまおう。私が罪を赦さないなら、その罪が残ってしまうのだから。こう考えるのは誤解です。**

**そもそも、私たち人間の罪を赦すことが出来るお方は、人間ではなく、イエス様ただお一人です。イエス様こそ、私たちに息吹きかけられて、赦しの御言葉を語って下さって、永遠の命へと招いて下さることが出来るただ一人のお方なのです。私たちは罪に縛られ罪に悩む時は、直ちにイエス様の身元へと近づき、イエス様に息吹きかけられて、御言葉に癒されることが出来るのです。**

**私たち人間が出来ることはただ、罪が赦されるということです。私たち人間がイエス様の様に罪を赦す権威を持っているわけではないのです。20章 23節の赦しという語句にはあまり日常生活では用いない漢字が当てられています。この赦しと言う語句は元のギリシャ語ではアフィエーミと言いまして、この語句には赦すという意味のほかに離れる、捨てるという意味合いがあります。この赦すという語句を捨てるという語句に言い換えて20章 23節を読んでみれば、そのイエス様が言われる意味がはっきりします。**

**だれの罪でも、あなたがたが捨てれば、その罪は捨てられる。だれの罪でも、あなたがたが捨てなければ、捨てられないまま残る。」**

**あ―そうか、罪を分かち合うのではなく、罪を互いに捨て去ればよいのだ、ということでありますが、このことが実は私たち人間には難しいのです。**

**ヘブライ人への手紙 12章 1節**

**こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、**

**罪というのは、私たちにしつこく絡みついて来て、私たちをイエス様の息吹から引き離そうと働く悪しき力であります。私たちはその罪の力を振り払うために、益々、イエス様と親密になり、息吹きかけられて、御言葉に生かされるようにされます。イエス様なしでは私たちは、罪を捨てることが出来ないのです。**

**祈り**

**父なる神よ、あなたは、この地上に聖霊を降して下さり、聖霊の満たしによって、教会を誕生させて下さいました。その計り知れない御恵みに感謝しあなたに賛美を捧げます。**

**私たちが、聖霊に満たされ、あなたから示された、永遠の命の道を最後まで歩み通すことが出来ますよう、私たちを守り、祝福して下さい。**

**主よ、どうか私たちの心と体を清め、私たちの罪を赦して下さい。私たちが、御子イエスの憐れみと慈しみを益々よく知り、御子に近づいていく事が出来ますように。**

**どうか、私たちを悪い霊から守って下さい。聖霊に満たされ守られながら、私たちが悪い霊を捨て去っていく事が出来ますように。**

**父と聖霊と共に**